

平成23年度実施協働事業 協働事業評価書

事業名：市民緑地「新倉ふれあいの森」の維持・管理

団体名：NPO 法人 和光・緑と湧き水の会

担当課：環境課

評価者：協働推進懇話会（委員8名）

評価：○適当 △工夫が必要 ×改善しなければならない

■事業の評価（事業目的、問題解決の手法、事業の実施体制、年間スケジュール、事業継続性、協働の必要性、協働の成果、他団体とのネットワーク）【○8人】

- ・委託料の約3分の1を会員研修費に使用していることから、研修の内容や成果、事業への活用方法などを具体的に報告いただけるとより市民の理解が深まる。
- ・竹林の間伐と竹の子掘り体験や七夕飾りのための竹を準備するなど地域の子供達も巻き込んだイベントは地域の活性化につながり、森の保全とその活用は「ふれあいの森」づくりに大きく役立っている。また、生態系の調査、観察は森の保全につながるばかりでなく、人と人とのふれあいに結びついている。

■協働の評価（協働の必要性、協働の成果、他団体とのネットワーク）【○8人】

- ・市外の団体との交流及び実践の対外発表などは、類似団体の見本となる。
- ・環境課からの評価も高く、今後も継続していただきたいと思いました。
- ・地域住民や近隣施設を巻き込んだ事業展開を積極的に実施されている点が、協働の意義の観点からも評価できると思います。
- ・他団体との積極的な交流や多くの地域住民の参加を得た取組は、当該団体のみの活動でなく「つながり」や「ひろがり」を期待できる。

■自己評価の評価【○8人】

■総合評価（今後事業が発展するためのアドバイス）

- ・最近、切り出した竹を使ったエコキャンドルの取り組みなどもあるので、竹の活用を通じて他団体とのネットワークをより広げることが期待したい。
- ・受益者の広がりもあり、他団体との交流にも積極的に取り組んでいる点はプラスに評価したい。
- ・実際に現場を見た。看板や植物の名前のプレートなど分かりやすかった。竹林の整備は大変苦労しているかと思う。竹を使った竹細工やたけのこ掘りなど、楽しんで自然に触れられるのではと思った。ぐんま昆虫の森に行かれたようなので、子どもたちに昆虫の見つけ方や飼い方などご指導していただきたい。
- ・事業の評価・協働の評価とも成果が出ている。事業提案・事業報告・収支決算とも具体的に分かりやすく、市民に事業を丁寧に説明しようとする姿勢が伝わる。
- ・二輪草や山吹草の保護や樹木の選定や間引き作業など大変な活動であるが、継続して実施いただきたい。
- ・貴重植物が群生する場所であり、これらの保護を含めた青少年の参加を得ての保全活動は、和光市に残存する緑地を次世代に伝えていく大きな意義がある。